

2021年11月

## ウッドショック後の世界の林産物市場の動向と展望

ショーン・ローラー

およそ6カ月前、北米の針葉樹製材価格はかつてない水準まで高騰しました。この出来事は広く「ウッドショック」として知られるようになり、以前の記事で製材価格の急騰の理由を検証しました。その後、異常な高値は一服しましたが、市場は不安定な状況がいまだに続いています。先ごろ緊急事態宣言が解除され、数人の建設業者の方々にお会いしましたが、彼らが最も気にかけているのが「ウッドショックがどのようになっているか」です。残念ながら私は将来の製材価格を予見する水晶玉を持ち合わせていませんが、今後の世界の林産物の動向に関する見通しと最新情報を共有するのは有益ではないかと考えました。最初に、5月の価格急騰以降の世界の木材市場の動向に関する最新情報について要点を説明します。次に、貿易動向が日本市場に及ぼした影響に触れます。それから、住宅業界において針葉樹製材の需要をけん引する主な要因について考察し、2022年の市場展望で締めくくります。

### 市場の最新情報

2021年前半は、世界の木材需要の急激な高まりや、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に起因する木材生産・出荷の制約などの様々な要因が相まって、製材価格が過去最高水準まで高騰しました。北米の主要な製材市場指標である **Random Lengths (R/L) Composite Index** は、5月に1,000ボードフィートあたり1,514米ドルと最高値を記録しました。しかし、供給が需要に追いつき、バイヤーが一息ついて高値の在庫を整理するようになったため、8月には平均価格が1,000ボードフィートあたり400米ドル前半まで下がりました。価格が採算水準以下に下がると、工場は減産に転じました。またカナダ西部と太平洋岸北西部全域で山火事が猛威を振るい、生産がままならなくなりました。夏の終わりには需要と供給が再び均衡し、R/L指標は徐々に上昇して10月半ばまでに1,000ボードフィートあたり575米ドルの水準に達しました。第4四半期の先物価格を見ると、2022年にかけて製材価格が上昇する傾向にあることがわかります。

増産と米国への輸出拡大が奏功し、市場は今年半ばまでに冷静さを取り戻しました。1月から6月にかけてブリティッシュコロンビア州の針葉樹製材生産量は20.9%増加し、49億ボードフィートとなりました。同時期にカナダ全体の針葉樹製材生産量は12.5%増加し、125億ボードフィートに達しました。1月から8月にかけて、カナダ産針葉樹製材の対米輸出量は7.4%増加し、106億ボードフィートとなりました。堅調な米国市場にはヨーロッパの製材所も注目し、1月から7月にかけて、ヨーロッパの針葉樹製材の対米輸出量は36.4%増加し、

2,332,702 m<sup>3</sup>となりました。

米国の国内生産の拡大と輸出量の減少のおかげで、製材価格も再び均衡を取り戻しました。操業を停止していた工場の再稼働と既存の生産ラインの拡大により、2021年の北米の製材生産量は430万m<sup>3</sup>増加すると見込まれています。この増産の大半は、成長の早いサザンイエローパイン（SYP）と恵まれたコスト構造で知られる米国の南部地域が担います。日加間の製材貿易は安定していますが、これは特筆すべき例外であり、域内で消費される北米産製材が増えています。1月から6月にかけての北米産製材の中国への出荷量は、前年同期の合計190万m<sup>3</sup>から82万m<sup>3</sup>に減少しました。これは北米市場で消費される北米産製材の割合が増加したからです。

### 貿易が日本に及ぼす影響

こうした貿易動向が日本にどのような影響を及ぼしているのでしょうか。プラス面としては「ウッドショック」をメディアが煽っているにもかかわらず、カナダ・日本間の製材貿易は堅調です。2021年1月から7月までのカナダ産製材の対日出荷量は722,111 m<sup>3</sup>で、これは2020年同期の出荷量726,178 m<sup>3</sup>の99.4%に当たります。とりわけ2021年前半、日本は中国に代わり、北米に次ぐカナダ産針葉樹製材最大の輸入国となりました。同時期の日本のカナダ産針葉樹丸太の輸入量は、474,110 m<sup>3</sup>と336%増加しました。2020年の輸出量に悪影響を及ぼした、同年のブリティッシュコロンビア州沿岸部の伐採請負業者によるストライキに解決したことで、カナダ産丸太の対日輸出量は通常の水準に戻りました。

一方、他の供給地からの対日輸出は減少し、米国市場に向けられました。1月から7月までの日本のヨーロッパ産針葉樹製材の輸入量は20%減の1,226,989 m<sup>3</sup>でした。同時期の日本の米国産製材の輸入量は54%減少し、57,275 m<sup>3</sup>でした。ロシアの針葉樹製材の輸出については、2021年1月から6月にかけて、対日輸出量は18.6%減の415,618 m<sup>3</sup>でしたが、英国、ドイツ、ベルギーなどヨーロッパ諸国向けは2桁の成長をみました。

### 需要をけん引する要因：北米住宅市場

次に需要に目を向けると、製材価格はピーク時から下落したものの、引き続き力強いファンダメンタルズが下支えしていることがわかります。米国の住宅着工件数は、世界の林産物市場において需要をけん引する重要な役割を担っています。1月から8月にかけて、米国の住宅市場は21.5%成長し、着工件数は年換算で162万件となりました。市場アナリストによると、本来の需要は実際にはもっと高かったかもしれないが、労働力と資材不足により抑制

されたそうです。APA が予測する米国の住宅着工総数は 2021 年が 159 万 5,000 件、2022 年は 159 万件です。1 月から 8 月までのカナダの住宅市場も堅調な伸びを見せ、成長率は 34.6% に上昇し、着工件数は年換算で 28 万 6,000 件でした。カナダの住宅着工件数は 2021 年に 29 万件に達し、2022 年はわずかにペースが落ち、27 万 5,000 件ほどになると予測されています。北米住宅業界の堅調さを支えているのは、人口増加と移民の流入という力強い人口統計学的ファンダメンタルズです。米国の平均人口増加率は約 0.6% で、居住者が年間ほぼ 200 万人増加しています。カナダが目標とする新規移民の数は、年間 40 万人です。売りに出される中古および新築住宅の在庫水準は逼迫した状態が続いており、住宅ローンは 30 年固定金利が 3% 程度という低い水準にとどまっています。パンデミック後の景気回復が雇用の拡大を促しており、過去 1 年で米国の求人は 1,100 万件と倍増し、8 月には失業率が 5.2% まで下がりました。このような堅調なファンダメンタルズに支えられて、建設業界は 2022 年も活況が続くでしょう。

このような追い風の効果を弱めているのが住宅価格の高騰です。米国の消費者物価指数は 8 月に 5.2% 上昇しましたが、建築資材に限って見れば、価格は前年比で 33% 上昇しました。新築住宅の価格上昇率は 2 桁に達し、シアトルやフェニックスなど一部の市場では 25% 値上がりしたところもあります。カナダでは先ごろ実施された連邦議会選挙で、住宅価格の上昇が選挙戦の主な争点として浮かび上がりました。住宅ローンの金利は現在は低いものの、上昇傾向にあります。米国連邦準備銀行がインフレ抑制のために金融緩和の縮小と金利引き上げを開始する中、住宅ローンの金利が上向いています。短くまとめると、需要ファンダメンタルズを見ると 2022 年も住宅市場は安定した状態が続きますが、インフレ圧力により住宅需要が抑制されるでしょう。

## 将来の展望

上記のように、来年の北米の住宅新築件数は現在の水準にとどまり、比較的堅調に推移するとみられます。製材価格は夏の急降下の後、上昇傾向にあります。木材先物市場は現在、価格が 1 月の 1,000 ボードフィートあたり 796 米ドルの水準に落ち着いています。来年の北米の製材の生産能力は 380 万 m<sup>3</sup> の増強が見込まれ、その一部は今年後半に操業を開始する可能性があります。増強される能力のほとんどは米国南部地域になるでしょう。カナダでは、ブリティッシュコロンビア州の生産能力が大幅に拡大する可能性は低いものの、サスカチュワン州、ケベック州、沿海州などロッキー山脈の東側で、ある程度の増産を期待しています。全体として、新たな生産能力は需要の急騰の緩和に貢献するはずですが、しかし一方で、生産能力の増強が必ずしも生産増につながるわけではないことに留意すべきです。

加えて、市場に大きな影響を及ぼす可能性がある「ワイルドカード」にも注意すべきです。輸送のボトルネックとロジスティクス問題は今も解決していません。北米の港の混雑とコンテナ不足が続き、今も出荷が制約されています。先ごろ、カリフォルニア州のロングビーチ港で、70隻を超える船舶が陸揚げを待って沖合に停泊するという、とりわけ衝撃的な事例がありました。輸送のボトルネックとコンテナ不足はブリティッシュコロンビア州のバンクーバー、米ワシントン州のタコマやシアトルのような北西部沿岸の港でも顕著です。コンテナ市場では、北米のホリデーシーズンに間に合うように出荷したい中国の製造業者からの需要が高まっています。そのため空のコンテナを急いで中国に返送するという事態が続いており、北米の輸出業者はコンテナの確保で厳しい競争に直面しています。トラック運送業者の不足も出荷の遅れと運送費の上昇の要因です。生産予測は安定していますが、輸送のボトルネックが価格の変動を招くことはよくあります。こうしたサプライチェーンの問題に関し、建設業者と輸入業者は賢明にも、できるだけ長くリードタイムをとって必要な製材の量と品目を工場に伝え、輸出業者が十分な生産量と船舶のスペースを計画・確保できるようにしています。

SPF J-グレードのカナダ産製材の日本への供給について、会員企業は日本市場のニーズを賅えると確信しています。貿易データを見ると、ウッドショックのさなかに日本への輸出量を増やした供給地域はカナダだけだということがはっきりとわかります。COFI 市場開発運営委員会のジョン・ラングレー議長は先ごろ、日本向けの供給に関する展望について問われ、「日本市場のニーズを満たすのに十二分の SPF 製材を用意しており、さらにこの市場を成長させたいと考えている、というのが私たちの基本的な立場です」と答えました。おそらく「ウッドショック」の最悪の時期は過ぎ去り、2022年には事態が通常に戻ると期待しています。需要のファンダメンタルズから、来年も住宅市場は堅調とみられますが、慎重な生産能力の拡大が市場の過熱を抑えることにつながるでしょう。最後に、誰もが非常に困難だったと感じるこの1年に、変わらぬご支援をいただいた日本の大切なステークホルダーの皆さんに感謝いたします。